

松田副社長(総合技術研究所長)が紫綬褒章を受章

Koyo Seiko Vice-President A. Matsuda Receives Purple Ribbon Medal

弊社の松田昭信副社長(総合技術研究所長)が、1999年春の褒章で、紫綬褒章を受章した。

紫綬褒章は、学術、芸術分野で発明、改良、創作など顕著な業績を上げた人に贈られる国家褒章で、氏は自動車用ステアリングシステムの技術革新を推し進めた功績が高く評価され、今回の受章となった。氏は、光洋精工に入社後、弊社として初めてステアリングの開発に着手して以来、約40年に亘って、ステアリングの研究開発と事業展開の先頭に立って会社を牽引してきた。

氏は、従来のボールネジ式ステアリングのギヤ部の改良により、メカ部の高機能化を図り中央位置でのギヤ部の噛み合い比が最も小さく、中央位置より左右に離れるに従いギヤ比が次第に大きくなるように改良して、ハンドル操作を容易に行なえるバリアブルステアリング装置の開発に成功。当時の特許庁の注目発明ともなり、広く自動車メーカーの採用とともに多くの関係者の関心を引く技術となった。

この技術は自動車の車庫入れ、低速でのハンドル操作等には非常に有効で自動車用ステアリングの基本技術となった。女性、高齢者ドライバーの増加を予想した氏は、その後もステアリング操作の容易性を追求し、油圧式のパワーステアリングから現在の電動式のパワーステアリングに至るまで一貫してパワーアシストステアリングの開発と改良を推進し、自動車の基本コンポーネントとしてのパワーステアリングの今日の需要を創出してきた。今回の受章はこの功績が認められたものである。

弊社の自動車用ステアリングシステム分野は、マニュアルステアリング(ボールネジ式、ラック&ピニオン式)、油圧パワーステアリング、電子制御式油圧パワーステアリング、電動パワーステアリング、電動ポンプ式パワーステアリング、DDモータ式パワーステアリングと次々に新しい機構とシステムが開発され、事業化されてきた。

この間、かつては「機械」部品であったステアリングも電子化が進み、制御部のみならず駆動部も油圧式から電動式へと進歩発展してきている。1983年には、世界で初めて電子制御式パワーステアリングを開発し、1988年には消費エネルギーが



1 / 6(燃費換算)となる電動パワーステアリングを世界で初めて実用化した。

これは、「安全に」「快適に」という自動車の基本的な要求に応えた研究開発の結果であり、近年特に大きな社会的要求となっている「環境への配慮」に対応する研究開発の成果でもある。

これからの研究開発はこれら基本的なニーズに対応すると共に、システム化、モジュール化、グローバル化という自動車産業、メーカーの要望にも積極的に応えた研究開発が必要となっている。

現在では、Koyoステアリングシステムは、世界の多くの自動車メーカーで広く採用され、日本国内ではトップメーカーとして業界をリードする立場となっている。

弊社としては、今回のこの受章をステアリング事業の拡大展開の一里塚ととらえ、今後もステアリングシステムの供給を通じ、グローバルサプライヤーとして自動車産業と社会に貢献していきたい。